

# サーベイメーター校正受入れにおける新型コロナウイルス感染防止との取り組み

Effort to Prevent Infection of Novel Coronavirus at Time of Receiving Survey Meters for Calibration

○河野孝央、平山貴浩、助川洋、波田野珠美枝、渡辺浩之、須永美穂、江口智美

○Takao Kawano, Takahiro Hirayama, Hiroshi Sukegawa, Sumie Hatano,

Hiroyuki Watanabe, Sunaga Miho, Tomomi Eguchi

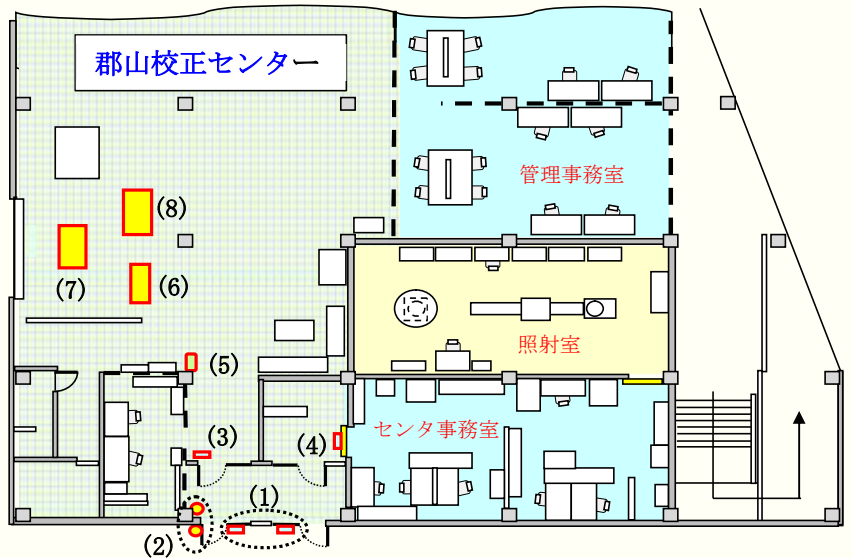
日本遮蔽技研郡山校正センター (サンガホールディングス)

Koriyama Calibration Center, Japan Shield Technical Research Co., Ltd, (SANGA Holdings)

- はじめに： 日本遮蔽技研郡山校正センターには毎日、福島県内各地の除染等作業現場から測定器が運び込まれる。年に一度の校正定数更新のためである。本報告では、この搬入時に危惧されるウイルス感染防止を目指した、除菌体制および作業手順の現状を紹介する。
- 除菌体制および作業手順： 建屋の平面図は除菌体制の全容である。(1)から(8)の番号は、感染防止における手順の流れを示す。ここで(1)、(3)、(4)は注意喚起の「掲示」、(2)は校正センター入口での希釈エタノール除菌、(5)はAI 検温装置とハンディー検温器、(6)～(8)は測定器の除菌作業エリア (除菌前測定器保管 → 除菌 → 除菌後保管の連携作業) である。校正定数更新のための照射と測定は、この後に行われる。

## (1) & (2) 正面入り口

(注意事項と除菌剤)



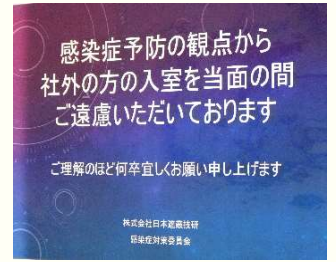
## (5) AI 検温装置とハンディー検温器



## (3) 所外者への注意事項 (除菌エリア入口)



## (4) 所外者への注意事項 (校正エリア入口)



## (6) 除菌前測定器保管エリア



## (7) 測定器除菌作業エリア



## (8) 除菌済み測定器保管エリア



- 結果 (除菌作業の経験から言えること) 除菌とは、現場的には拭き取り作業であり、放射能汚染の除染作業に似ている。しかしながら実際には、両者に大きな違いがある。除染の場合、放射能汚染検査で除染の必要性や効果を、その都度、確認することができる。一方、除菌の場合、通常の校正施設には、感染の有無を確認する術がないため、測定器の全数除菌を行わざるを得ず、多くの労力と時間を要する。なお、郡山校正センターにはウイルスの専門家がない。したがって、マスコミなどを通じて得た情報をもとに、試行錯誤の対策しかとれないが、今後、感染者数が十分に減少するまでは、現体制を維持する必要があると考えている。